

edited by dr. masato mugitani
published by masquerade cooperation

part III no.1-no.5

COMPILED COLOUR EDITION

august 2002

限定30部のうちの10/30

目 次

No. 1.

ホーミング・カード・クライマックス	1
レッスン・イン・ミスディレクション	8
アレックス・エルムズレイに往年のマニアを見た	12

No. 2

泥棒と羊	17
トランプ版「泥棒と羊」	21
「7つの鍵」の別のアプローチ	25
かつて MASQUERADE の定期購読を申し込まれたみなさんへ	30

No. 3

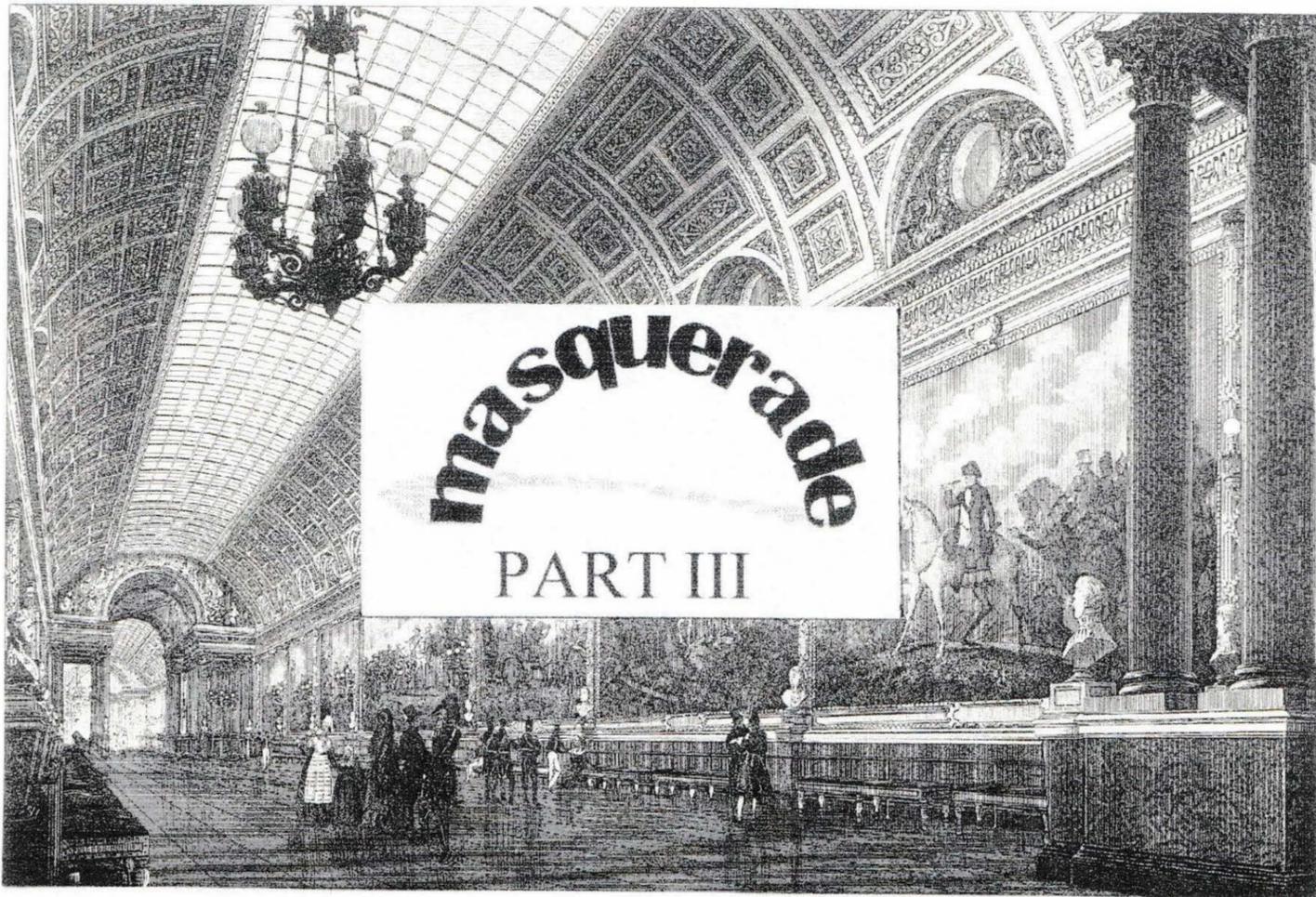
クロック・イフェクト	31
MASQUERADE Part3 の第3号です。	44

No. 4

日本語によるスペリング・トリックの研究	45
はずむボール・はずまないボール	52
MASQUERADE PART3 の定期購読が途中で終わる方へ	58

No. 5

ポール・フォックスの「ミラクル・ギミック」について	59
---------------------------	----



edited by dr. masato mugitani
illustrated by ton onosaka
published by masquerade cooperation
part III no.1, may 1997

ホーミング・カード・クライマックス

麦谷眞里

(まえがき) フランシス・カーライルのホーミング・カードは素晴らしい作品です。初めて原案を読んだとき、こんなこと、実際にできるはずがない、と思いました。後年、自分のレパートリーに加わるとも知らず、そのときは一読しただけで演ってみようとも思いませんでした。逆に、なぜこんな作品が、「スターズ・オブ・マジック・シリーズ」に収められているのか不思議でした。この作品の素晴らしさに気付いたのは、高木重朗さんの演技を見たときです。そのときの印象は強烈でした。ホーミング・カードの現象そのものもさることながら、この作品を目の前で上手に演じることのできる人がいる、ということが驚きでした。しかも、いま自分の見た手品が、かつて読んだフランシス・カーライルのホーミング・カードだとはわからず、私は、てっきり、サイ・エンドフィールドかDr. ジェイコブ・デイリーのカード・トゥ・ザ・ポケットの最後の箇所の変種だと思っていました。

その後、練習して、これを自分のレパートリーに加えたのは言うまでもありません。以来、私が好んで行なうカード・マジックのひとつになりました。

ホーミング・カードの面白さは、その繰り返しにあります。デッキからポケットへ、客のカードが2回

にわたって飛行するところにあります。通常はそれで十分なのですが、私は、ある日、いたずら心を起こして、3回目の飛行をクライマックスとして追加しました。あきらかにトリックとしては邪道ですが、これだけをステージで演じたわけですから、ひとつの演技としては、最後に意外な結末を持ったカード・マジックの手順になったと自負しています。題して、ホーミング・カード・クライマックス。

以下に解説したものは、私が、1992年の秋に香港の一流ホテルの国際パーティーで数百人の観客を前にして実際に演じたものの再現です。

[現象]

客が任意に選んで、しかもサインしたカードが、いつのまにか、マジシャンのズボンのポケットに飛行します。2回繰り返したあと、最後に、意外なところから客のカードが現れます。

[必要なもの]

- ①新品のデッキ 1組 (セロファンで包まれたものが最適)
- ②サインペン 1本
- ③小さめのチョップカップ 1個 (私は、口径5cm、高さ6cmの銅製のものを使っています)
- ④チョップカップを入れる紐つき袋(図2) 1個
- ⑤やや大きめのゼム・クリップ 1個

[準備]

- ①新品のデッキを上着の左ポケットに入れておきます。
- ②サインペンは上着の内ポケットに入れておきます。
- ③用意した新品のデッキと同じ裏模様のカードを1枚、四つ折りにしてゼム・クリップで留め、クリップを下にしてチョップカップの中に入れます(図1)。この状態でチョップカップを逆さまにしても、ゼム・クリップがカップの底の磁石にくっついて、カードは落下しません。

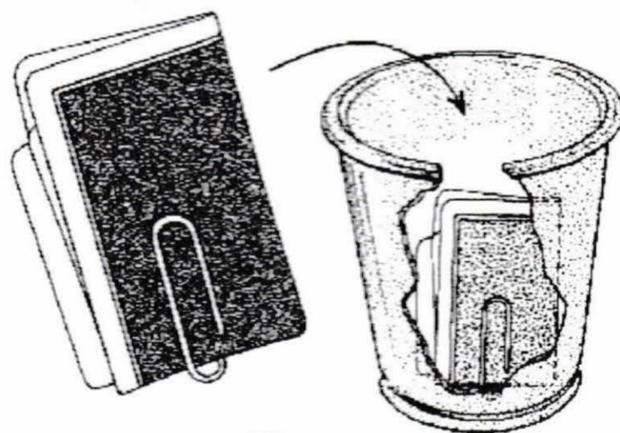


図1

このように準備したチョップカップを袋に入れて口を紐で縛っておきます(図2)。

[演技とやり方]

第1段: イントロ

- ①準備した袋入りチョップカップを手にとってステージ(あるいはサロン)に登場します。このカップを袋のまま、なにげなくマイク・スタンドに掛けておきます。あるいは、観客のよく見える場所に置きます。ことさら説明を加える必要はありません。特に注意を惹く必要もありません。しかし、明らかに観客から見える場所に置きます。

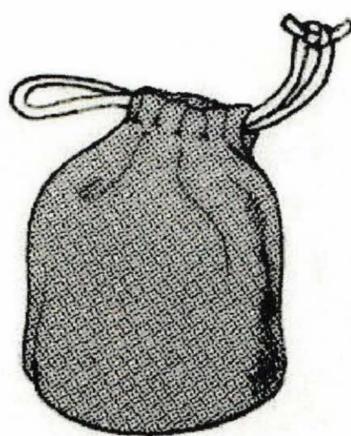


図 2

- ②観客の中からお手伝いしてくれる人を選びます。高木さんは、いつも女性を選んでおられました。私も、香港でのステージでは、香港政庁の女性の職員を選びました。まず、リラックスさせるために、「マジックは好きですか？」などと他愛もないことをいくつか訊ねたりします。そして、おもむろに上着の左ポケットから新品のデッキを取り出して相手に手渡します。「買って来たばかりの新しいトランプです。封を切って開けて確かめてください」。
- ③客がセロファンをとります。セロファンの上のほうだけでなく、ケースから完全にとってもらいます。生じたゴミは、マジシャンが受け取ってひとまとめにしてズボンの右ポケットに入れます。これは何気なく右手を出してセロファンのゴミを受け取って、これまた何気なくズボンの右ポケットに入れます。客が封を切ってデッキを開けます。封が固くてなかなか開かないときは、マジシャンが手伝います。開けたら、ケースだけを受け取って上着の左ポケットに入れます。
- ④まず、客にデッキをよく調べてもらいますが、「トランプは普通52枚からなっていますが、余計なカードが何枚か入っているはずですよ。それをください。ジョーカーもください。今日は52枚だけを使います」こう言って、広告のカードとかジョーカーを受け取って、上着の右ポケットに入れます。これで、客の手には52枚のデッキだけがあることになります。「新しいトランプですね。よく確かめたら、どうぞ、ご自由に切ってください」ステージの客に自由に切らせます。この間、マジシャンは、さまざまな動作の間に両手が空であることを示しておきます。もちろん、「両手は空ですよ」と言っただけではいけません。あたりまえのことですから。
- ⑤客が十分に切ったら、デッキを裏向きのまま受け取ります。デッキを両手でよくそろえながら、客に向かって、「ズボンの右ポケットが空であることを確認してください」と言います。女性の客は、100%ためらいますから、にっこり笑って、「どうぞ、手をズボンのポケットに入れて確認してください」と促します。客がポケットに手を入れたら、さきほどマジシャンが入れたセロファンに触れます。すかさず、「中に何かあったら出してください」と言います。
- ⑥客がセロファンを引き出します。マジシャンは、怪訝な顔をしながらセロファンに目をやり、同時に右手でデッキのトップ・カード(何でもよい)をパームしてズボンのポケットに入れます。ただちに、パームしていたカードをそこに置いて、右手でポケットの中を点検する振りをします。このタイミングは、マジシャンの目を客のセロファンから離さずに、客がポケットから手を出したら、すぐに、変だなあ、そんなものが入っていたのか、という感じで行ないます。セロファンが一部残っていたら取り出しますし、残っていなくとも、何か小さなゴミを取り出したかのようなジェスチャー

で右手をポケットから出します。「失礼しました。これは、さっきのセロファンです。これで、カラッポになりました」と一方的に言います。「空っぽになりましたね」などと観客に訊ねてはいけません。もう一度、点検しようとする人がいるからです。ゴミは、上着の右ポケットにしまえます。

第2段:客がカードを選ぶ

- ⑦「それでは、これから、あなたに1枚選んでもらいます。どのカードでもかまいません」こう言って、デッキを広げます。客の選ぶカードは何でもかまいません。フェアに選んでもらいます。「それでいいですか？では、そのカードを見て覚えてください。忘れるといけないので、ほかの方々にも見せてあげてください」こう言って、他の観客を指差します。ほとんどの人は、マジシャンに見えないように気を遣いながら他の観客にカードを見せます。このとき、マジシャンは、堂々と前に出てカードの表を覗いて見てしまいます。観客たちは、「あ、見た」などと叫んで驚きますが、マジシャンは、にっこり笑っています。仮に、そのカードがハートの5であったとします。「ハートの5ですか。あまり、いいカードではありませんね。もし、ほかのカードがよかったら、交換してもいいですよ」と言います。もちろん、客が交換したいと言ったら交換します。
- ⑧最終的に、ステージに上げた客の満足のいくカードが決まったら、上着の内ポケットからペンを取り出してカードの表側にサインしてもらいます。ペンは、元通り内ポケットにしまえます。「あなたのサインのあるハートの5は、世界でこの1枚だけですよね」客はもちろん肯きます。客からハートの5を受け取って、このカードを他の観客にもよく示します。

第3段:1回目の飛行

- ⑨「これから不思議なことが起こりますからよく見ていてください」こう言いながら、ハートの5をデッキの中に入れて、トップにコントロールします。私は、単純にダブル・カットしてトップに持ってきていますが、サイド・スティーリングでもなんでもかまいません。手元を見ないで話しながら行なうのがコツです。
- ⑩左手に持ったデッキに右手を上からかけてリフルします。「見えましたが？」ステージの客が、「何？」というような顔をしますから、右手で空中に弧を描きながら、「いま、あなたのサインしたハートの5が、こんなふうに空中を飛んで、私のポケットに入ったのが見えましたが？」とズボンの右ポケットを指差します。きっと客は相手にしてくれません。「本当ですよ」こう言って、右手が空であることを見せてから、ズボンの右ポケットに入れて、さきほどパームして入れたカードを裏向きのまま半分ほど引き出します(図3)。「ね、本当でしょう？」こう訊きながら、カードをポケットに戻して客のほうを見ます。「さっき、あなたのハートの5が、こんなふうに空中を飛んで、ポケットに入ったのです」もう一度、右手で空中に弧を描いてみせます。
- ⑪客のほうを見ながら右手を左手のデッキの上にかけて、トップのハートの5をパームする準備をします。「確かに、ハートの5でしたよ。え？確かめてみたいですか？」こう言って、ハートの5をパームしたまま右手をポケットに入れます。すぐに、このハートの5をゆっくりポケットから引き出します。以上は、文章で書くと、きれぎれになっていますが、動きとしては休まることのない一連の流れです。客に、カードの表を見せず、マジシャンだけが表を見て、「確かに、あなたのサインがしてあるハートの5です。私を信じてください」と言います(図4)。もちろん、誰も信じませんか

ら、ゆっくりとカードをひっくり返して表を見せます。まさしく客のサインしたハートの5です。

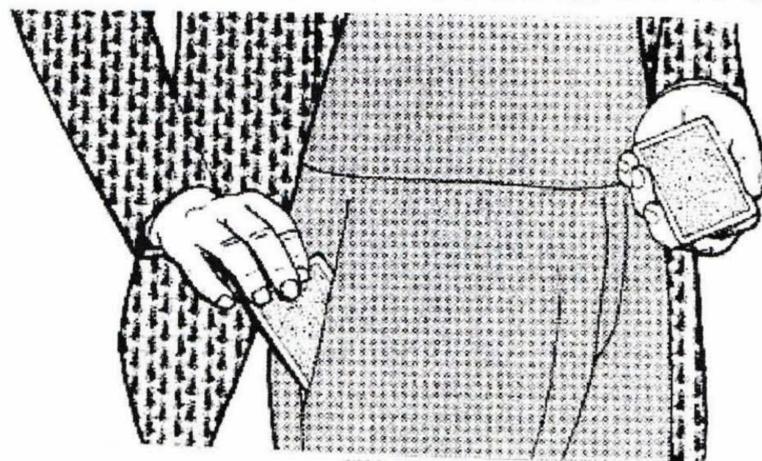


図 3

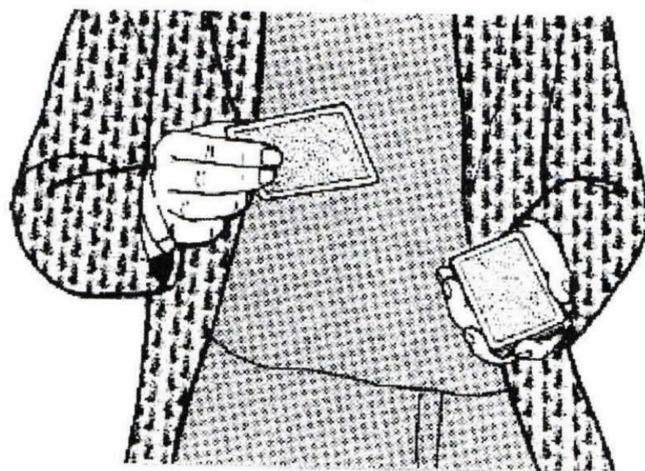


図 4

第4段: 2回目の飛行

⑫客は感嘆の声をあげますから、この瞬間にハートの5をズボンの右ポケットに戻して、ただちに、もう1枚のポケットのカードと交換します。そして、このカードをポケットの外に出しながら、「そうですね。今度はもう少しゆっくり演ってみましょう」と言います。もちろん、このカードの表を見せてはいけません(図5)。

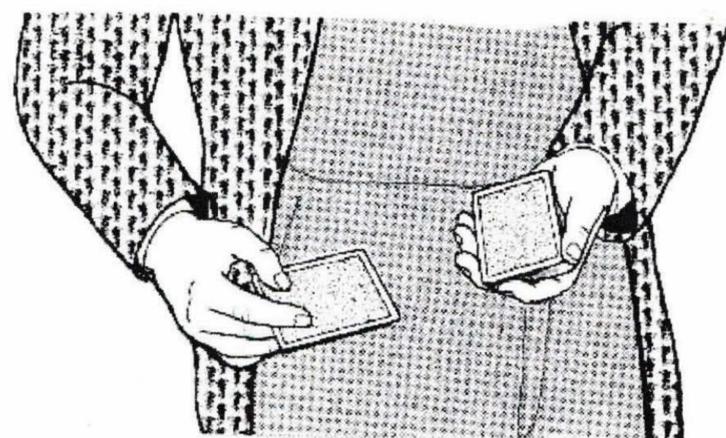


図 5

⑬このカードをデッキの中に入れてしまいます。「いいですか？よく見ていてください」こう言って、デッキをリフルします。再び三たび、右手で空中に弧を描いてあたかもカードが飛んでズボンの右ポケットに入るような仕草をします。「見えましたが？」もちろん見えません。「もうポケットに入っています。信じますか？」客は、いいえ、と答えますから、空の右手をゆっくりポケットに入れて、ハートの5を取り出し、サインを確認してもらいます。

第5段: クライマックス3回目の飛行